

編集後記

昨年のAPSのポスター発表のとき、リバモアの研究者が研究の中身とは関係のない質問、「あなたは海上保安大学校(略称:海保大)に所属されていますが、どうして海保大でプラズマ物理の研究をしているのですか?」をしてきました。私は少し驚きましたが、彼はきっと沿岸警備隊士官学校とプラズマ物理がどう関連しているのか、奇異に思ったのでしょう。私は「学生時代から一貫してプラズマ理工学に関する研究を行っており、海保大の機関科の学生に対して電気工学やエネルギー工学に関する講義を行うために、プラズマ理工学に関する研究を行っているのです。」と答えました。この研究者だけでなく、今まで国内外の大学や研究所の先生からこれと似たような質問として、「海保大でプラズマの研究をやって良いの?」などがありました。私はすべて上記のように答えています。私の研究分野が校外の研究者からそのように見られているのと同じように、校内の先生や学生からも海上保安業務とどう関連しているのか疑問視されることもあります。私はプラズマの数値計算を

行っていますので、特別研究(一般大学の卒業研究)のテーマとして海上保安業務と関連した海洋中の音波伝搬の数値計算を学生に提示し、学生と一緒に勉強したことがありますが、最近は専門のMHDに関連した数値計算を提示し、学生の興味がある部分をやらせています。最近の学生は幹部海上保安官として将来現場に赴任して役に立つ海上保安分野の研究だけでなく、興味のある研究分野を選ぶようになっています。海保大では特別研究は時間割の中に組み込まれているため、一般大学と違い限られた時間内でしか行えないですが、特別研究の目的は学生が自ら考えて問題を論理的に解決する能力を身につけることにあり、その点は一般大学と差はありません。というわけで、私はどんなテーマであっても学生が上記の能力を身につけば良いと考えています。面白いことに、海保大創設のモデルになっており、また、現在、海保大と国際交流活動を行っている米国沿岸警備隊士官学校では、ヘリコンプラズマの実験を行っている研究グループがあり、毎年、制服を着た学生がAPSで発表しています。(神吉隆司)

プラズマ・核融合学会役員

会 長: 吉田 善章 副会長: 白谷 正治(推薦委員長: 学会賞) 森 雅博(推薦委員長: 研究助成, 男女共同参画委員長)
常務理事: 下妻 隆(総務委員長)
理 事: 浅野 克彦(財務委員長) 浅野 史朗 上田 良夫(年会運営委員長)
内野喜一郎(支部・地区研究連絡会委員長) 大野 哲靖 小野 靖
岸本 泰明(研究部会連絡委員長) 久保 博孝(広報委員長) 坂本 瑞樹(企画委員長)
神野 雅文 竹入 康彦 中井 光男
波多野雄治(編集委員長) 長谷川 晃
監 事: 利根川 昭, 中村 圭二

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ: 波多野雄治(富山大) 副委員長: 坂本瑞樹(筑波大)
エディタ: 金子俊郎(東北大), 江尻 晶(東大), 中村祐司(京大), 城崎知至(広島大), 小西哲之(京大), 酒井 道(滋賀県立大)
編集委員: 青木 順(阪大), 石野雅彦(量研), 伊藤篤史(核融合研), 伊庭野健造(阪大), 小倉浩一(量研), 荻野明久(静岡大), 尾崎 哲(核融合研), 加藤 進(産総研), 神吉隆司(海上保安大), 古閑一憲(九大), 小菅佑輔(九大), 佐々木徹(長岡技科大), 佐藤雅彦(核融合研), 染谷洋二(量研), 高橋裕己(核融合研), 高橋光俊(助川電気工業), 竹内 希(産総研), 龍野智哉(電通大), 西塚直人(NICT), 藤井恵介(京大), 星野一生(量研), 三重野哲(静岡大理), 三沢達也(佐賀大), 村上朝之(成蹊大), 柳 長門(核融合研), 吉橋幸子(名大), 渡邊裕樹(首都大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第93巻第11号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2017年(平成29年)11月25日
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,300円(税別)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。